



中小企業における新型コロナウイルス感染拡大の影響と「ポストコロナ」に向けた課題の整理

信金中央金庫 地域・中小企業研究所主任研究員

品田 雄志

(キーワード) **新型コロナウイルス、ポストコロナ、業況、資金繰り、人手不足、仕入価格高騰、全国中小企業景気動向調査**

(視 点)

本稿では、業況、資金繰り、人手過不足、仕入価格の4点から、中小企業における新型コロナウイルス感染拡大の影響についてまとめるとともに、「ポストコロナ」に向けた課題を整理した。論点整理にあたっては、信金中央金庫が全国の信用金庫の協力を得て取りまとめている全国中小企業景気動向調査を主に用いた。

結果、新型コロナウイルスの発生前後で中小企業の状況が大きく変化していることがわかった。新しい状況に対応していくためにも、生産性向上などの取組みを着実に実施していくことが求められよう。

(要 旨)

- 業況は全体的には改善が進んでいる。しかし、コロナ前の水準には達していない。また、業種、規模の両面で改善の度合いに格差が生じており、いわゆる「K字型」の様相がみられる。これら「出遅れ業種・小規模事業者」が着実に改善するか否かが中小企業全体の業況を左右することとなろう。
- 資金繰りは急回復しており、現時点で、全体的には大きな問題とはいえない。しかし、借入の増加によって財務状況は急速に悪化しており、将来の債務償還に危機の芽が残っている。返済するには収益力の復活が必要であり、長期的な取組みが求められよう。
- 人手不足感は急速に強まっている。背景には、中小企業においてダイバーシティや設備投資に遅れがあったことが考えられる。積極的な取組みを通じて、生産性を向上させることが望まれよう。
- 仕入価格は、供給制約に加え、経済活動の再開に伴う需要の急激な高まりといった複合的な要因を受け、2008年以来の高水準となっている。対して、販売価格も上昇してはいるものの、仕入価格の上昇ペースに追いついていない。中小企業は、販売価格を引き上げるための取組みが必要となろう。

はじめに^(注1)

2020年に発生した新型コロナウイルスは、中小企業の経営に大きな影響を与えた。その後、オミクロン株による第6波など新たな懸念は生じているものの、全体的にはワクチンの普及もあり、中小企業の経営は立ち直りの兆しをみせている。

そこで本稿では、新型コロナウイルスの影響について整理するとともに、「ポストコロナ」に向けて解決すべき課題について、既知のことを含めて整理する。整理にあたっては、信金中央金庫が全国の信用金庫の協力を得て、四半期ごとに取りまとめている「全国中小企業景気動向調査」を活用する（図表1）。

1. 業況一改善進むも「K字型」が定着

中小企業の業況は、全体的には改善が進んでいる。直近の2021年12月の業況判断DIは

△19.7と、過去最悪水準となった2020年6月（△56.9）と比較すれば、相対的に良い水準にある（図表2）。もっとも、プラスマイナス0前後だった新型コロナウイルス感染拡大前と比較すると依然として低水準にとどまっており、コロナ前の水準にまでは回復していないことには留意が必要である。また、信用金庫取引先の業況は、日銀短観の大企業及び中小企業の業況と比較してほぼ一貫して低位にとどまっており、企業規模間で格差が存在することを示唆している^(注2)。

また、全体としては回復しているものの、業種別にみると、大きく回復した業種がある一方で、回復が思うように進んでいない業種もみられる。具体的には、大きく回復した業種の中には木材・木製品製造業や金属製品製造業、精密機械器具製造業、輸送用機器（主に自動車）の製造業および小売業などが挙げられる（図表3左）。一方で、繊維関連の製

図表1 2021年10-12月期における全国中小企業景気動向調査の概要

調査の仕様

調査対象	信用金庫取引先15,285社 (個人事業主を含む。)
調査方法	共通の調査票に基づき、 対面、電話、FAXなどで実施
調査時点	2021年12月1日～7日
有効回答数	13,905社、回答率91.0%

回答企業の構成比

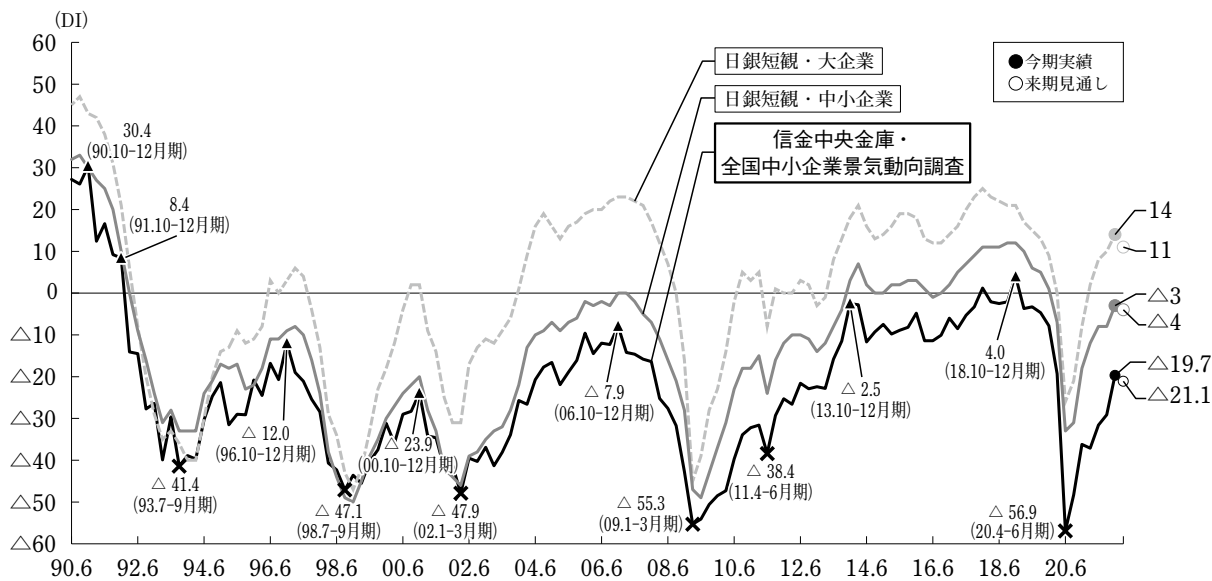
従業員規模別	社数	構成比	業種別	社数	構成比
4人以下	4,838	34.8	製造業	4,451	32.0
5～9人	2,718	19.5	卸売業	1,893	13.6
10～19人	2,467	17.7	小売業	2,358	17.0
20～29人	1,186	8.5	サービス業	1,827	13.1
30～39人	670	4.8	建設業	2,221	16.0
40～49人	861	6.2	不動産業	1,155	8.3
50～99人	775	5.6	合計	13,905	100.0
100～199人	276	2.0			
200～299人	114	0.8			
合計	13,905	100.0			

(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(注)1. 本稿は、2021年11月30日に日本学術振興会 産業構造・中小企業第118委員会第300回会議での報告内容について、一部修正のうえ、まとめたものである。同会議でコメントをお寄せいただいた先生方に深く感謝する。

2. 日銀短観における中小企業は、資本金2,000万円以上1億円未満の企業と定義されている。これと比較して、「全国中小企業景気動向調査」の対象企業は小規模な企業が多い（図表1参照）。

図表2 業況判断DIの推移



(備考) 信金中央金庫および日本銀行資料より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

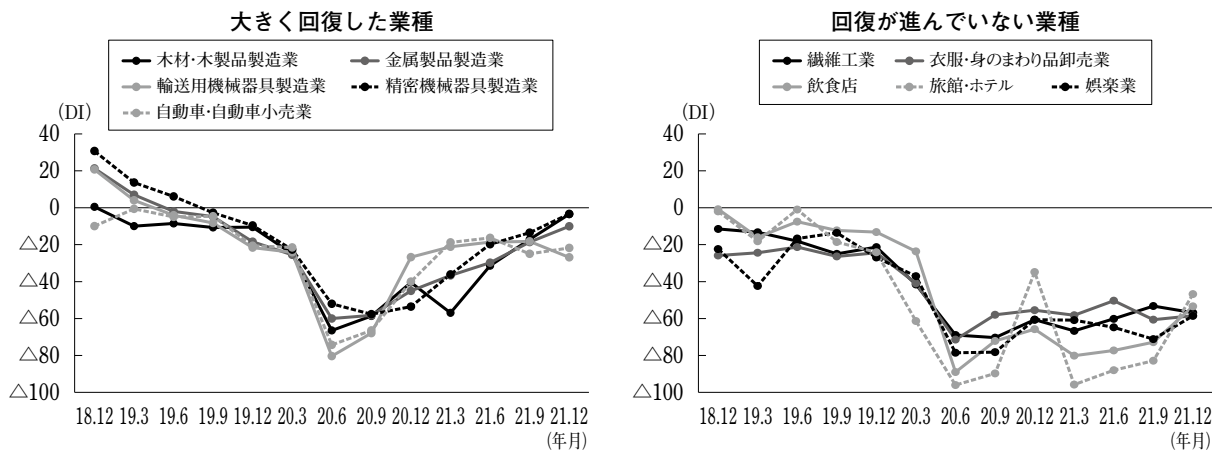
造業および卸売業、飲食店、娯楽業、旅館・ホテルでは、思うように回復が進んでいない(図表3右)。

業況の格差は、業種間に限ったことではない。従業員規模別にみると、中小企業間においても、規模の大小で回復に差がみられる。比較的規模が大きい企業では、回復傾向が強い一方で、小規模企業では回復が遅れがみられ

ている(図表4)。理由としては、小規模企業において経営資源の不足が特に顕著であることから、コロナ危機からの脱却に向けた取組みが不十分になりがちであることが挙げられよう。

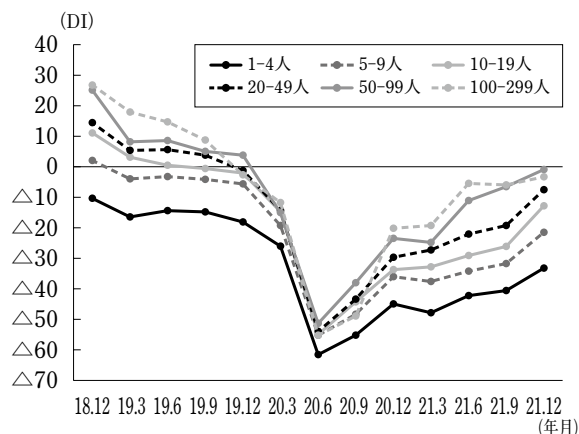
中小企業の業況は、業種、規模の両面で「K字型」の様相がみられる。これら「出遅れ業種・小規模事業者」が着実に改善するか否かが中小企業全体の業況を左右することとなる。

図表3 業種別にみた業況判断DIの改善状況



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

図表4 従業員規模別にみた業況判断DIの改善状況



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 資金繰り一大幅改善の背後に財務基盤の悪化

中小企業の資金繰りについては、全体的に大幅に改善している。直近の2021年12月の資金繰り判断DIは△9.6と、過去最悪水準となった2020年6月(△31.8)と比較すれば、相対的に良い水準にある(図表5)。新型コロナウイルス感染拡大前(2018年6月に△4.0)

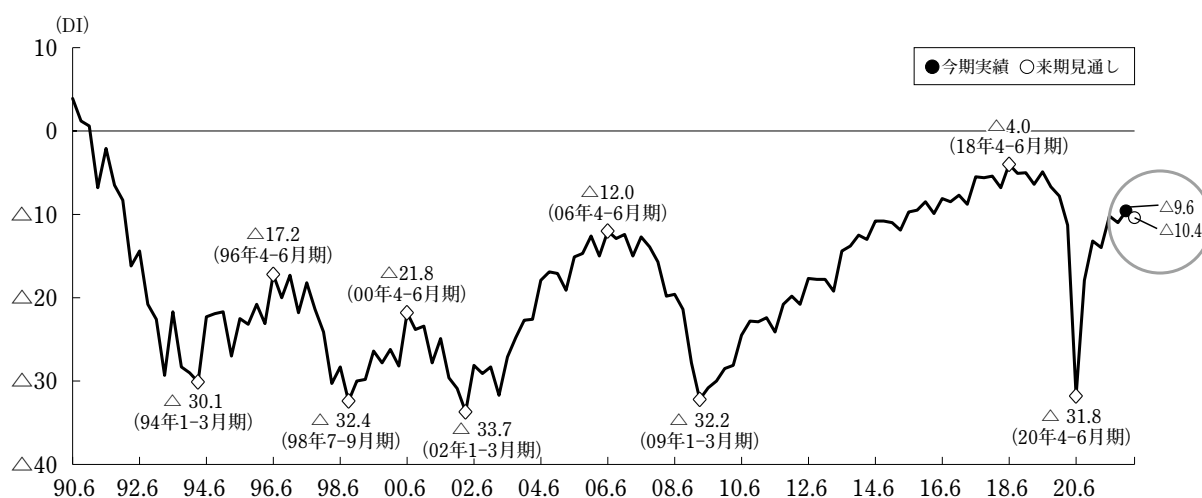
と比較すれば低い水準ではあるものの、バブル崩壊後の30年間の比較でみると、決して低い水準ではないことがわかる。

このように資金繰りが急速に改善した背景には、政府による実質無利子・無担保融資や保証料軽減など、さまざまな資金繰り支援策が功を奏したことが挙げられよう。うち、民間金融機関(信用金庫+国内銀行)に限れば、コロナ前後で貸出残高は約40兆円増加しており、その大部分が2020年3月~6月に集中している(図表6)。

一方で、金融機関貸出の増加を受けて、借り入れている中小企業側の債務負担は増している。中小企業の債務償還年数は、コロナ禍前は景気拡大もあり緩やかに低下を続けていたが、コロナにより急速に悪化した(図表7)。

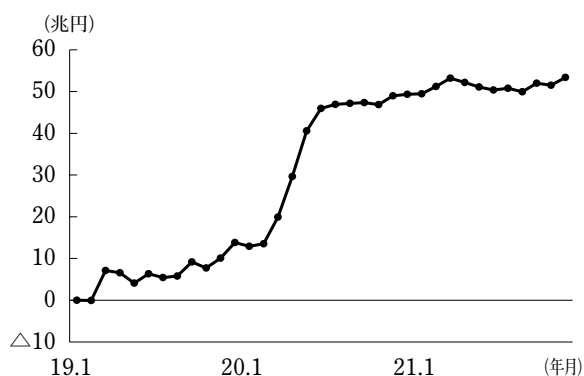
中小企業の資金繰りは急回復しており、現時点で、全体的には大きな問題とはなっていない。しかし、財務状況は急速に悪化しており、将来の債務償還に危機の芽が残っている

図表5 資金繰り判断DIの推移



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

図表6 貸出金の増加額（信用金庫＋国内銀行）の推移



(備考) 1. 2019年1月を起点に、貸出金の増加額をグラフ化
2. 信金中央金庫ならびに日本銀行資料より作成

る。返済するには収益力の復活が必要であるが、今後、長期にわたって確認していく必要がある。

3. 人手過不足一人手不足の深刻化が再来

中小企業において、人手不足が再び急速に深刻化しつつある。直近の2021年12月の人手過不足判断DIは△20.8と、人手不足感が急速に高まった。人手不足感は、コロナの影響を強く受けた2020年6月（△2.0）に急速に

図表7 債務償還年数の推移

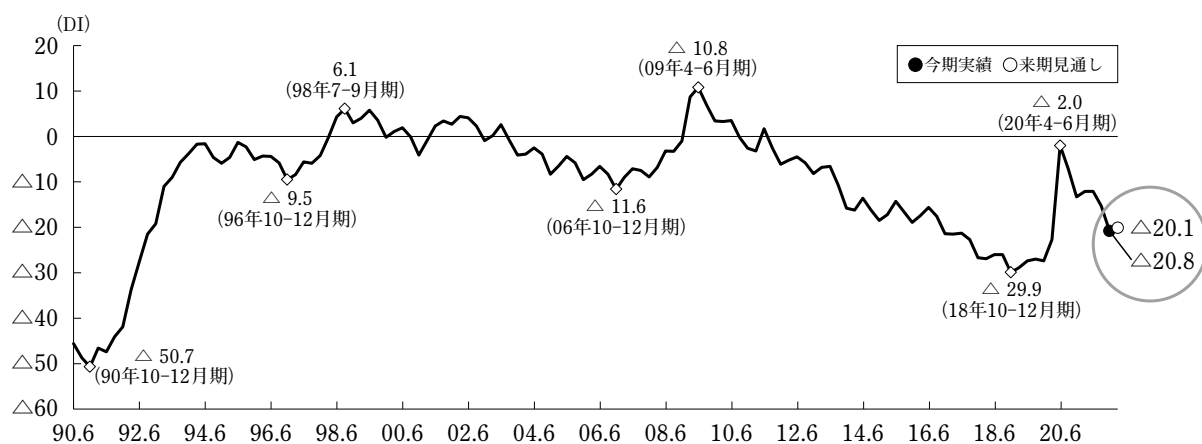


(備考) 1. 法人企業統計調査より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 資本金1,000万円以上1億円未満を中小企業と定義した。
3. 債務償還年数=有利子負債/キャッシュフロー。有利子負債は金融機関借入金(流動・固定)+社債、キャッシュフローは経常利益÷2+減価償却費と定義。

弱まったものの、現状、コロナ前の最悪水準（2018年12月、△29.9）に近づきつつある（図表8）。

また、人手過不足判断DIは、業況判断DIとは逆相関（業況が良くなると人手不足感が強まり、業況が悪くなると人手不足感が弱まる。）の関係にある。その関係性自体は崩れていないものの、人手過不足の水準は大きく

図表8 人手過不足判断DIの推移



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

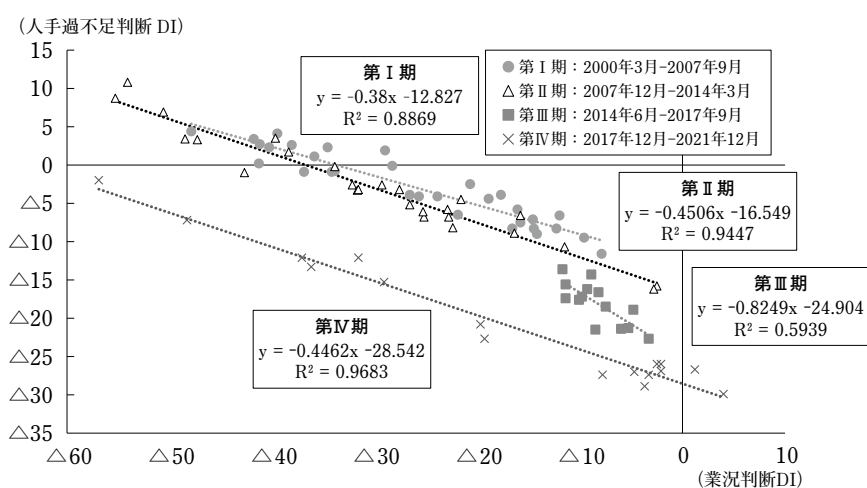
変化している。2000年3月期から2021年12月までの88四半期について、構造変化があったかどうかを検定^(注3)したところ、4つの期間（第Ⅰ期：2000年3月-2007年9月、第Ⅱ期：2007年12月-2014年3月、第Ⅲ期：2014年6月-2017年9月、第Ⅳ期：2017年12月-2021年12月）に分けられた（図表9）。

とりわけ、アベノミクスによる積極的な財政・金融政策が本格化し、景気拡大局面にあった第Ⅲ期（2014年6月-2017年9月）には特異な動きをみせ、業況の回復が限定的であるなか、人手不足が一方的に進んでいった。この背景には、中小企業側における2つの事情によるものと考えられる。1つ目は、ダイバーシティ^(注4)への対応に遅れがみられたことである。本来ならば、労働市場の変化に合

わせて、推進するべきだった女性や高齢者、外国人の活躍が進まなかった。全国中小企業景気動向調査の「調査員のコメント」からは、一部の企業から女性や外国人の活躍に消極的であったり、若い従業員（特に男性）の採用を求める声が聞かれている。2つ目は、当該時期に設備投資が進まなかったことによる、生産性向上の遅れである。全国中小企業景気動向調査によると、当該時期に設備不足感が拡大する一方で、実際に設備投資を実施した企業の割合は20%前後にとどまっている。

中小企業は、従前より大企業と比較して生産性が低いことが問題視されてきた（図表10）。ダイバーシティへの取組みや効率化のための設備投資を通じて、生産性を向上させることが望まれよう。

図表9 人手過不足判断DIと業況判断DIの散布図

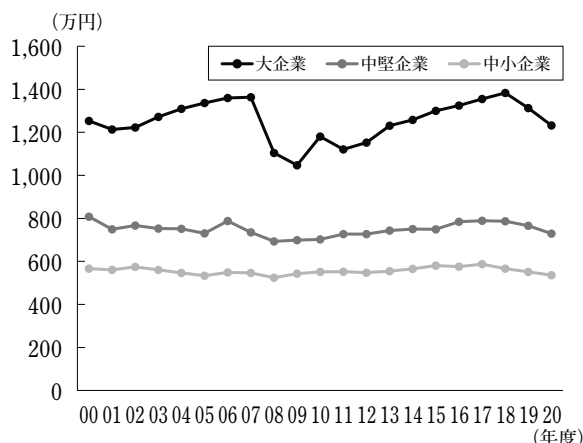


(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(注)3. 構造変化が複数あることが想定され、かつ未知であったため、バイ・ペロン (Bai-Perron) 検定を用いた。同検定を使用することで、構造変化が起こった回数とその時点について、統計的に解析することが可能になる。本稿で同検定を使用したところ、構造変化が3回（2007年12月、2014年6月、2017年12月）あったことが示唆された。また、図表9からは、特にアベノミクスが本格的に動き出したとみられる2014年6月を境に関係性が大きく変化していることがうかがえる。

4. 日本語で「多様性」と訳される。性別や人種、年齢など多様な背景を持つ人材の良さを活かすことで、企業の経営力を高めることができる。

図表10 従業員1人当たり付加価値額の推移



(備考) 1. 法人企業統計調査より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
 2. 資本金1,000万円以上1億円未満を中小企業、1億円以上10億円未満を中堅企業、10億円以上を大企業と定義した。

4. 仕入価格—上昇が顕著

仕入価格が急上昇している。直近の2021年12月の仕入価格判断DIは44.2と、原油価格高騰の影響を受けた2008年6月(53.8)以来13年ぶりの高水準となった(図表11)。今回の高騰の背景には、コロナに伴うウッド

ショック、半導体不足、その他原材料不足や資源価格高騰といった供給制約に加え、経済活動の再開に伴う需要の急激な高まりといった複合的な要因がある。

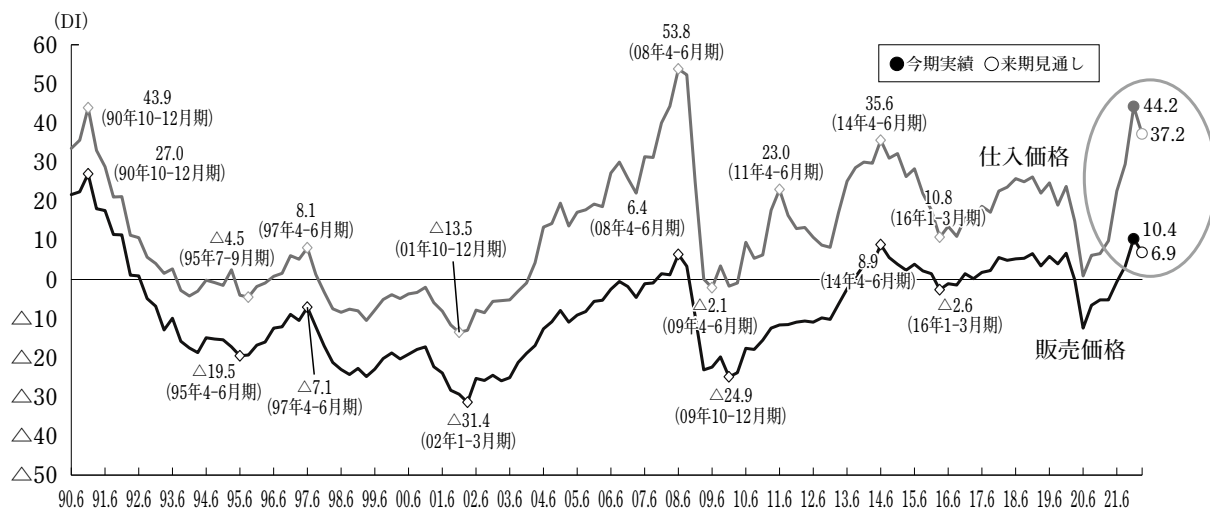
一方で、販売価格への転嫁は思うように進んでいない。直近の2021年12月の販売価格判断DIは10.4と、1991年以来の高水準となっはいるものの、仕入価格との格差は拡大している。

中小企業は、従前より取引条件の改善が必要と指摘されてきた。前述した生産性向上のためにも、販売価格を引き上げるための取組みが必要となろう。

おわりに

本稿では、業況、資金繰り、人手過不足、仕入価格の4点を中心に、新型コロナウイルスの影響について整理するとともに、ポストコロナに向けて解決すべき課題について指

図表11 販売価格判断DI・仕入価格判断DIの推移



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

摘した。

コロナ前後で、中小企業の状況は大きく変化している。業況は全体としては改善傾向にあるものの、業種・規模間で差がみられる。資金繰りは改善しているものの、借入の増大を通じ、財務基盤が悪化している。また、人手不足が深刻化しているうえ、仕入価格の上昇も懸念材料である。中小企業は、これらの

新しい状況に対応するため、生産性向上などの取組みを着実に進めていくことが求められるよう。

信金中央金庫 地域・中小企業研究所では、これまで全国中小企業景気動向調査を通じ、定期的に新型コロナウイルスの影響について定点観測してきた。今後も、同調査を活用して状況を分かりやすく伝えていく。

〈参考資料〉

・信金中央金庫「全国中小企業景気動向調査」